

コレクション展『メモリー／メモリアル 65年目の夏に』関連企画

宮島達男“ピースシャドウ（平和の影）プロジェクト”ウェブ参加

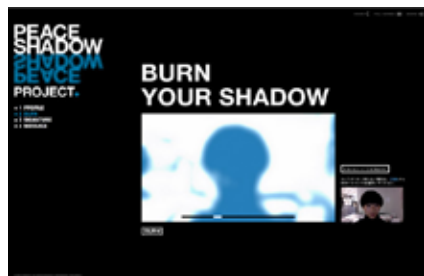
アーティストが表現するヒロシマを記憶・記録をテーマに紹介するコレクション展「メモリー／メモリアル 65年目の夏に」。本展に作品を出品しているアーティスト・宮島達男が行う“ピースシャドウ（平和の影）プロジェクト”に参加できます！

これまで一貫して人の生や死、生命の再生を表現してきた宮島達男。

彼が行っている“ピースシャドウプロジェクト”とは、原子爆弾の投下により建物等に焼き付けられた人間の影を写した写真から着想を得たもので、核なき世界を願うひとの意思とその存在を「青い影」として焼き付け、それを平和を願う署名として残す、というアートプロジェクトです。

当館ではコレクション展「メモリー／メモリアル 65年目の夏に」の開催、そして65回目の8月を迎える時期に合わせ、このプロジェクトにウェブサイトを通して参加できるスペースを設けます。

展覧会会場入口前に設置したスペースで、パソコンに付いているカメラで自身の姿を撮影。自分の署名とメッセージを記入すると青焼きの画像となってウェブ上で公開されるという作業で、誰でも気軽に自由に参加することができます。



カメラで自分の姿を撮影



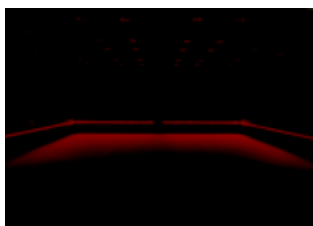
サインを書きこみます



核兵器にまつわる質問に答えます

●ピースシャドウプロジェクト <http://www.peaceshadow.net/>

★宮島達男…1957年東京出身、1986年東京芸術大学大学院を修了。1988年にはヴェネチアビエンナーレ「アペルト」部門に選出され、発光ダイオード（LED）によるデジタルカウンターを用いた作品を発表し高い評価を受け、以後、日本を代表するアーティストとして国際的に活躍。1999年ヴェネチアビエンナーレ日本館代表。現在は、東北芸術工科大学の副学長を務め、世界アーティストサミットを主催するなど、多岐にわたり活躍している。



コレクション展「メモリー／メモリアル 65年目の夏に」出品作品

宮島達男《Death of Time》1989

サイズ可変 発光ダイオード、ICコントローラー、電線、アルミニウムパネル

当館のコミッションワークとして制作された作品。それぞれ違う速さで1から9までの数字をカウントするLEDが壁沿いに並んで描く一筋の赤い線が、部屋の中央で完全に途切れ、再び始まっていくというこの作品は、多くの生命が表す赤い光とそれを一瞬で奪いつくした原爆の深い闇、生と死が分断された状態を「時の死」として表現している。

★ピースシャドウプロジェクト

【日時】2010年8月14日（土）・15日（日） 各日10:00-17:00

【会場】広島市現代美術館 コレクション展会場入口前 ※参加無料

★コレクション展「メモリー／メモリアル 65年目の夏に」

【会期】開催中～11月7日（日）

【開館時間】10:00-17:00 ※入館は閉館の30分前まで ※11月3日は19:00まで開館

【休館日】月曜日（祝休日にあたる場合開館し、翌平日休館）

【観覧料】一般360(280)円、大学生270(210)円、高校生170(130)円

※（）内は30人以上の団体料金 ※11月3日は全館無料

広島市現代美術館（学芸担当：神谷、山下 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1 E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

TEL/ 082-264-1121(掲載用)・082-264-1146(問い合わせ用・学芸直通) FAX/ 082-264-1198